アレキシサイミアと成人愛着スタイル、就学前母子関係の関連

○馬場 天信

(追手門学院大学心理学部)

キーワード: アレキシサイミア、愛着スタイル、母子関係

The relationship of adult attachment styles, preschool mother-child attachment with alexithymia

Takanobu BABA

(Faculty of Psychology, Otomon University)

Key words: Alexithymia, Attachment style, Mother-child attachment

【目的】

Alexithymia は、Sifneos(1973)によって概念化された感情に対する気づきや表出の乏しさを特徴としている。従来から心身症患者に多いことが臨床的に指摘されてきたが、現在では感情制御の障害として再定義され、幅広い精神・身体疾患に関係する特性として捉えられている。近年では脳内処理や感情処理メカニズムを解明する基礎研究が盛んであるが、その一方で Alexithymia の形成要因については不明な点が多く、過去の家族関係や養育態度についての調査報告が幾つかあるに過ぎない。本研究では、愛着形成の側面から、Alexithymia 形成要因を探るべく、欧米の先行研究 (Wearden et al.,2003, 2005) と同様に成人愛着スタイルとの関連性を検討することを第 1 の目的とした。また、就学前の母子関係の側面から、Alexithymia 形成要因に影響を及ぼしうる過去の親子関係の側面を調査レベルで明らかにすることを第 2 の目的とした。

【方法】

調査協力者: 調査は「関係性の発達と感情・身体との関係に関する調査研究」として実施し、研究の概略と趣旨を紙面と口頭で説明して調査協力者を募った。回答漏れのあった数名を除いた 177 名 (男性 58 名、女性 119 名、平均年齢 19.89 歳,SD=1.17) を最終的な調査協力者とした。なお、調査協力者には調査票提出時に謝金を支払った。

調査内容: 調査では本発表以外の複数の尺度が含まれているが、以下、本発表で報告する尺度のみを示した。

1) アレキシサイミア傾向 国際基準尺度の邦訳版であり、「感情同定困難」、「感情描写困難」、「外面志向認知様式」の 3 因子で構成される TAS-20 (小牧他,2003) を用いた。

2) 成人愛着スタイル尺度 一般他者を想定した成人愛着スタイルを測定する ECR-GO (中尾・加藤,2004) を使用した。この尺度は「見捨てられ不安」と「親密性回避」の 2 因子で成人愛着スタイルを測定する。

3) 成人愛着タイプ尺度 一般的他者を想定した 4 分類 (安定型、拒絶型、とらわれ型、恐れ型) で愛着タイプをみる事が可能な日本語版 RQ-GO (加藤,1999) を用いた。

4) 就学前の母子関係 就学前の母子関係を想起させて回答させる尺度 (酒井,2001) を用いた。この尺度は、「安定的」「拒否的」「アンビバレント」という愛着に関係する 3 つの母子関係の側面を測定するとされている。

【結果及び考察】

まず TAS-20 合計得点、及びその下位尺度と ECR-GO、RQ-GO の下位尺度との相関係数を算出した (Table 1)。その結果、アレキシサイミア傾向が高いほど見捨てられ不安と親密性回避の両方が高くなることが明らかとなった。次に、RQ-GO の回答から 4 分類の人数を振り分けたところ安定型 36 名、拒絶型 16 名、とらわれ型 54 名、恐れ型 71 名であった。そこで、この 4 分類を独立変数、TAS-20 得点を従属変数とする 1 要因の分散分析を行ったところ被験者間要因の主効

果が認められた ($F(3,176)=7.85, p<.01$)。Tukey 法による多重比較を行ったところ、安定型 (50.67 点) が最もアレキシサイミア得点が低く、とらわれ型 (57.15 点) 及び恐れ型 (59.64 点) との間に違いが認められた。

Table 1 TAS-20とECR-GO, RQ-GOとの相関				
	見捨てられ不安	親密性回避	自己観得点	他者観得点
TAS-20合計	.556 **	.291 **	-.382 **	-.243 **
感情同定困難	.525 **	.156 *	-.352 **	-.244 **
感情描写困難	.384 **	.432 **	-.371 **	-.278 **
外面志向認知	.184 *	.075	-.049	.036

** $p < .01$ * $p < .05$

就学前の母子関係に関する尺度とアレキシサイミアとの相関係数を算出した (Table 2)。その結果、「拒否的母子関係」と有意な正の相関が認められた。項目レベルから就学前の親子関係とアレキシサイミアとの関係を検討するために相関係数を算出したところ、「いづか見捨てられるのではないかと思います」「助けて欲しいときに、母親は助けてくれなかった」「私が泣いても、母親は関心がなかった」「私は同じことをしていても、怒られたり、怒られなかったりした」といった項目と関連性が高かった。

Table 2 TAS-20と就学前の母子関係尺度との相関			
	安定的関係	拒否的関係	アンビバレント関係
TAS-20合計	-.077	.284 **	.164 *
感情同定困難	-.032	.283 **	.182 *
感情描写困難	-.036	.258 **	.112
外面志向認知	-.101	.017	.015

** $p < .01$ * $p < .05$

アレキシサイミアと恐れ型愛着との関連性が強いという本結果は欧米の先行研究と一致していた。また、就学前の母子関係では拒否的な関係、特に母親の無関心や情緒反応の一貫性のなさがアレキシサイミア形成要因として関係している可能性が考えられた。今後はインタビュー調査を通して、質的な側面から関係性の障害に影響する親子関係や感情発達のあり方を検討することが必要と考えられた。

【引用文献】

中尾達馬・加藤和生 (2004) . “一般他者” を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討. 九州大学心理学研究, 5, 19-27.
加藤和生 (1999) . Bartholomew らの 4 分類成人愛着尺度 (RQ) の日本語版の作成. 認知・体験過程研究, 7, 41-50.
付記) 本研究は日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究 21730572) の助成を受けた。